

「野の花の丘便り」 9月中旬

我が世の春?キク科の植物

9月になりキク科の花が多く見られるようになりました。ノコンギク、ユウゼンギク、ヤマハハコ、ノコギリソウなど野の花の丘の花23種のうち、9種がキク科の花です。

被子植物は芽の出方によって、双子葉と単子葉に分類され、双子葉はバラのように花びらが一枚ずつ離れている離弁花類と、アサガオのように花びらがくっついて一枚となっている合弁花類に分類されています。

意外と間違われやすいのがキク科の植物です。キク科の植物は花びらが一つ一つ独立しているため離弁花類と間違えられやすいのですが、実際は花びらがくっついて一枚となり、それがたくさん集まり一つの花になっている合弁花類です。一般的に合弁花類は離弁花類より進化していると言われています。

キク科の植物は地球上のほとんどの所に自生して、世界中で2万種もあり最も分化した種と言われています。小花の集合体は美しく目立ち、虫にとっては大変魅力的で虫媒花として、受粉が確実に行えるような仕組みとなっていることから、最も進化した植物と言われています。

季節は秋へと、寂しさがただよって来る季節になりましたが、最も分化し最も進化した、キクの仲間にとっては「我が世の春?」といったところでしょうか。

秋を彩る「野の花の丘」のキクふたつ

ユウゼンギク



エゾノコンギク

